

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催日時・場所

日時	平成31年 1月11日13時30分 ~14時00分	場所	医師会館理事長室
----	---------------------------	----	----------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	牛久保西町内会 会長
松本 裕	地域住民の代表者	中川地区民生委員児童委員協議会 会長
井澤 一成	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (欠)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子 (欠)	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
小川 憲章 (欠)	当該サービスに知見を有する者	小川メディカルクリニック 院長
池村 明広	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
大山 学 (欠)	法人代表	
吉井 涼子	管理者	
宮島 佳代	看護主任	
箕輪 善果	看護リーダー	
朝比奈 ゆかり	介護主任	
青柳 かおる		
後藤 瑞佳	事務	
上條 由佳	事務	

4. 活動状況報告

別紙のとおり

(裏面あり)

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

■インシデント・アクシデント

1. 車椅子からの立ち上がろうとして転倒した人は、動きの把握はできているのか

■事例について

《障害者グループホームのターミナル期の利用者を介護保険事業所である看多機と連携して看取りをした事例》

1. 制度が違ってもめたりすることもあると思うが、両施設が利用者の看取りの気持ちに向かってよかった。
2. いろいろなところと連携・コミュニケーションが取れたら良い。
3. 制度での制限がある中で、よくやってくれた。
4. ケアプランでも発達支援・放課後デイなどの障害サービスを実施している。時世上、介護保険だけを知っていれば良い訳ではない。情報共有がうまく行ってよかったですね。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

■インシデント・アクシデント

1. に対して

突然の立ち上がりの可能性は分かっていたが、ベルトや車椅子装着タイプのテーブルは身体拘束になってしまうので、苦慮している。基本的にはダイニングテーブルに向かってもらい、フットレストに足を置いてもらうことで対応している。

■事例について

1. ～4. について

障害者制度のサービス利用をしている人たちが、高齢と共に介護保険に移行するときに、サービス提供者が行政と連携し、利用者が困らないようにサービス提供内容を整えていく必要がある。その際は、関わる連携機関が、現行制度を死守することに固執せず、柔軟に対応したことで看取りが実現できたのだと思われる。また、実際の連携においては、双方に窓口を決めて対応し、ターミナルケアに不慣れなグループホームの職員が何に困っているのかなど聞き取り、対応したことなどが、良かったと思われる。

7. 地域からの情報提供

・特になし

8. その他特記事項

・特になし

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況

登録者数(12月1日現在)	女性 8 名		男性 9 名		計 17 名	
要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請・区変中
	2 名	3 名	1 名	4 名	7 名	0 名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者	年齢	通い	泊まり	訪問看護	訪問介護	備考(入所日、退所日など)
ア	80	6	1	4	18	
イ	59	20	1	1	0	
ウ	94	13	10	5	0	
エ	80	12	2	2	0	
オ	83	19	0	1	0	
カ	71	7	0	6	39	
キ	80	7	0	4	0	
ク	99	19	14	4	63	
ケ	90	27	22	32	7	
コ	98	26	22	4	7	
サ	74	8	0	1	14	
シ	97	21	9	6	0	
ス	80	14	11	0	3	
セ	54	4	0	14	8	登録:12/17~
ソ	56	8	0	0	24	
タ	78	31	29	0	0	
チ	70	12	0	0	11	
ツ						
テ						
ト						
ナ						
ニ						
ヌ						
ネ						
ノ						
ハ						
ヒ						
フ						
ヘ						
合計		254	121	84	194	
平均	79.0	14.9	7.1	4.9	11.4	

(裏面あり)

4. 運営方針

事業所の目標	【利用者の獲得】1. 適切な職員の確保と黒字転換 2. 「ケアの理念」の実現 「ケアの理念」: その人の「生きる」を支える。寄り添い、理解し、尊重する
目標に向けた具体的取組	1. 求人活動と既存の職員が充実した仕事ができ辞めないようにする 2. カンファレンスや記録による情報の共有をしている 3. 利用者や家族の意向を反映した多職種でのケアプランの作成と共有を目指している 4. 研修計画の実施

5. 活動報告

12月8日(土) 事例発表会(在宅事業部門) 12月10日(月) マーマセンター北保育園児 来所 合唱披露 12月22日(土) 誕生日会 12月25日(火) クリスマス会
--

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容・改善策	■インシデント ≪記録書の取り扱いの不備≫ 【経過】 利用者全員の11月のサービス記録書を確認し請求業務を行った後、ファイルに閉じる際に2名分の記録書がないことに気づいた。探した結果、医師会更衣室の自分のロッカーに事務所用に使用している自分のカバンの中から発見した。 【原因】 ナーシングでの作業の際、事務用の引き出しがなく、自分のカバンを使っていた。人数を確認して戻さなかった。 【方策】 個人のカバンは使用せず、事務所内に事務用の書類入れを設置する。 利用者の数と記録書の数を確認する。
内容・改善策	■インシデント ≪訪問忘れ≫ 【経過】 日中独居で週3回安否確認、トイレの声かけ、服薬の確認又は服薬介助を行っている。当該日の訪問は、看護師が11時に家族との話し合いのため、定期訪問とは別に訪問を予定していたが、家族の都合で日曜日に変更になり、看護の訪問は延期になった。20時、当日のスケジュール管理をする介護リーダーが、夜勤の看護師から、訪問記録がないと指摘され、訪問していないことに気がついた。家族に連絡するが取れず、夜勤者に相談したところ「既に20時を過ぎているし、普段は独居で生活しているから、訪問はしないでもいいのでは」と判断し、訪問に行かなかった。23時ごろ、家族から薬が残っていると連絡があり、訪問をしなかったことを謝罪した。 【原因】 看護師は家族と話をするために定期訪問とは別に訪問する旨をスケジュールを組む介護主任・リーダーに伝えていたが、介護は主任・リーダーは、看護師が定期訪問をすると認識しており、定期訪問の担当を決めていなかった。当日に家族と面談のための訪問が中止になった際にも、定期訪問にまで意識がいかず、定期訪問をするか否か確認をしなかった。20時に訪問忘れを気がついたにも係らず、夜勤の看護師の判断に頼り、不安はあったが訪問しなかった。 【方策】 訪問などが通常と異なる場合は、紙面での情報伝達をし双方確認をしあう。 トラブル等の判断は、介護の上司や管理者等に連絡して指示を仰ぐ。
内容・改善策	

7. 地域への情報提供

特になし

8. その他特記事項

特になし
